



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ソビエトにおけるコムソモールおよび教員組合の教育活動：1917年～1925年
Author(s)	長江, 好道
Citation	北海道大學教育學部紀要, 22, 241-260
Issue Date	1973-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29091
Type	departmental bulletin paper
File Information	22_P241-260.pdf



ソビエトにおけるコムソモールおよび

教員組合の教育活動

—— 1917 年～1925 年 ——

長 江 好 道

Воспитательная работа комсомола и
учительского союза в СССР

Ёсимити Нагаэ

は じ め に

小論は、ソ連邦における政権樹立初期、とくに 1917 年から 1925 年の「新しい組織」¹⁾ 確立期までのコムソモール Коммунистический союз молодёжи²⁾ および全ロシア教員組合 Социал-демократический союз учителей³⁾ の教育運動の生成・発展過程を対象とする。ここでは、両者の教育運動を主として、児童の共産主義教育 Деткомдвижение への指導過程に照射しながら論究していく。

小論では、両者の教育運動の発展過程を三つの時期に区分する。第一は、ソビエト政権の指導にもとづく両組織の生成過程とそれらの政治・思想教育の諸特徴について考究する。とくに、国際主義者・教員組合およびコムソモールの組織過程から全ロシアコムソモール第 3 回大会までの両組織の運動について考究する。第二は、新経済政策 Новая экономическая политика (НЭП) の開始にともなうソビエト政権の平和建設と両者の教育活動との関連を考究する。とりわけ、自組織の確立をすすめながら赤軍、労働組合、コルホーズ、児童組織などの他組織への浸透ないし組織母体となっていくことを通して社会主義教育の中核部隊としての役割を担うようになる時期を第二期とする。1922 年 5 月 19 日は、児童共産主義教育の運動母体として、コムソモールのイニシアティブでピオネール組織が創設される。これにかかわる両者の教育活動の量的、質的高揚がみられる。換言すれば、ピオネール組織創設の準備期における両者の教育活動の諸特徴を考察の対象とする。第三は、1922 年から 1925 年にかけて、労農同盟が進行し、かつ学校建設が具体的にすすめられる時期である。統一・労働という教育理念から階級・労働の教育理念へと転換する時期である。ここでピオネール指導者としてのコムソモールと教員の活動が社会主義建設と若い世代の共産主義教育にむかって統一的に進められ、両者の運動が大きく発展していく契機となる時期である。

以上対象とする時期は、コムソモール運動史からみるならば、1919 年 10 月 29 日、全ロシア労働者青年同盟第 1 回大会から、1924 年、全ソ連邦コムソモール第 6 回大会ないし 1925 年の全ソ連邦コムソモール第 4 回委員会までとする。また、教員運動史からみるならば、1917 年末の国際主義者・教員組合の設立から 1925 年 1 月 12 日～19 日の全ロシア教員組合第 1 回大会までとする。

1. 新しい組織と社会主義教育

「社会主義建設の事業」とは「幾千万という人びとの生活のもっとも深い経済的基礎を、あたらしく組織するということが問題である」⁴⁾。社会主義革命を達成した後のソビエト政権にとって焦眉の課題は、「全体の組織を模様がえすること」⁵⁾であった。組織問題について В.И.レーニンは「先進的な労働者が、幾千万の人びとを組織することをまなばない間は、かれらは社会主義者でもなければ、社会主義社会の創造者でもない。そしてまた、かれらは、組織上の知識をも身につけることはないであろう。組織の道は長期にわたる道である。そして、社会主義建設の諸任務は、ねばり強い、持続的な活動と、適切な知識とを必要としているが、この知識がわれわれには不足している」⁶⁾といい、レーニンは「組織」することにこそ真の社会主義社会を達成することのできる道があるとしている。

社会主義建設の過程は、とりわけ、イデオロギー戦線の分野で、思想的な、そしてもっとも根深い、もっとも強力な対立を生みだしていく。それは生産手段の私的所有の廃止と社会全体の新しい組織をつくりだす過程が、社会主義建設事業そのものであるからである。従って、社会主義建設にとって、「労働者の新しいすぐれた組織」が必要不可欠なものとなってくる。それでは、そのすぐれた組織の基本的条件はなんであろうか。それは労働者階級が、まず経済・文化・教育のすべての分野に精通し、経済の部門における全人民的な役割に精通し、経済建設を政治的に意味づけ、かつ自覚ある行動のできる人間を育成することである。

さて、新政権樹立後のロシアの現実には、決して平坦な道ではなく、むしろ厳しい諸条件に直面せざるを得なかった⁷⁾。まず、第一には十月社会主義革命の前後約4年間というものは、第一次世界大戦の最只中にあり、ロシア国内においては、1917年3月から10月まで、革命的動乱があいついで起った。また、1918年から1920年にかけて、ロシアの反革命軍と外国帝国主義者は、この若いソビエト政権打倒に激しい攻撃を加えた。その結果、ロシアは、彼等の犯罪のかつ破壊的な強盗戦争によって、とことんまでいためつけられた国土、ロシアおよび外国の帝国主義者たちが徹底的にしばりつくした国土と化したのである。当然にも、ロシアの工業生産力は極度に低下し、それに加えて食糧危機に直面し、深刻な経済の荒廃のなかで労働組合は弱まり、小ブルジョア的自然成長性の危険がでてきた。

国内戦が終り「干渉者と白衛軍をソビエトの土地から追いだしたのち、共産党とソビエト国民は社会主義建設を展開する任務に当面向した」⁸⁾。レーニンに指導されたロシア共産党(ボ)第10回大会は、これらの情勢を深く研究し、戦時共産主義の止揚と新経済政策 НЭП への移行の問題について検討した。それによると、まず第一には、社会主義建設の主要な問題は、プロレタリアートと農民との同盟が不可欠であるとしたことである。第二に、国の政治的、経済的、文化的生活を指導する党の役割がことさら重要であるとしたことである。換言すれば、「党と党外大衆とのきわめて緊密な結びつきの必要を指摘し、彼らを指導する形態と方法を規定した」⁹⁾ ことである。ここに社会主義建設の重要な課題があり、コムソモール、および教育組合のもつ任務がきわめて明瞭に提示されてくる。

新経済政策 НЭП の導入によって、国内の階級闘争は一段と激しいものとなり、まだ若いソビエト政権にとって最大の関心事は、敵階級の撲滅と自己階級の新しい人間改造、全面的に発達した人間の教育であった。若い世代を共産主義のモラルで武装することであり、成人の文盲撲滅に加えて共産主義教育で人民を再武装することであった。レーニンは、「いまわれわれ

に直接襲撃を加えるものはないし、われわれの咽喉をしめるものはないし、きょうのところ武器を手にしてわれわれを攻撃してくるものはない。それにもかかわらず、資本主義社会との闘争は百倍も激しい危険なものとなった。どこにわれわれに反対する敵がいるか、だれがわれわれの味方であるかをわれわれは、必ずしもはっきり知っていないからである。』¹⁰⁾ とのべている。つまり、これが国内戦を終えて間もないソビエトの情勢であり、新経済政策達成の鍵でさえあった。さらにいうならば、これが新経済政策期における文化革命の特徴であり、上部構造、とりわけ、教育が土台にたいして決定的な影響を与えるゆえんである。

ロシア人はツァーリによって世界で類例のないほど野蛮人にされきたことをレーニンは明確に指摘した。プロレタリア権力は、この激しい闘争に打ちかっていくために、人民大衆を過去の野蛮な状態から解放し、教育によって新しい人間の育成・改革につとめることが階級闘争に勝利する決定的な要素であるとともに、階級闘争に人民大衆を「組織」することが社会主義教育の道であるとした。まさに、コムソモールおよび教員は、人民大衆の組織者たることが期待されているのである。

2. コムソモールおよび教員組合創設期における社会主義教育運動

1) コムソモールの創設と組織拡大

「新しい組織」としてのコムソモールは、若い世代に社会主義教育を施すうえで多大な役割を担っている。すでにのべてきたように、コムソモールは1918年10月29日から11月4日にわたって開かれた労働者農民青年同盟第1回大会で正式に創設され、国際主義者・教員組合の創設に比べて約11カ月遅れて発足している。青年の組織および教員の組織が、ソビエト政権の指導のもとで相前後して創設されていることがわかる。しかし、実際には、労働者農民青年同盟第1回大会でこの組織が創設される約15年前、青年の組織の必要性はロシア社会民主労働党によって詳細に検討されていた。まず、1903年、ロシア社会民主労働党は、その綱領で青年の組織化について規定している。上の事実からも容易に理解されるように、児童を含む青年の革命的・民主的教育運動はすでに19世紀末葉から芽を吹き「新しい組織」の土台となり、それらの革命的伝統が、上でのべた第1回大会に継承されている、とみることができる。第1表は、青少年の革命的・民主的運動の顕著な例を示したものである。

児童を含めた青年の革命的・民主的教育運動が、労働運動に支えられながら、ロシアの各地で高揚し、展開され、時代の推移とともに増大していく過程が明らかにされている。とくに、ペテルブルク、モスクワの労働者を中心とする労働運動とともに発展していることが明らかである。これらの運動は、1905年頃から活発になり、革命期には広汎な社会運動に転化し、また、国内戦の時期には青年の大きな勢力ができていたことがわかる。とくに目につくものとしては、1915年、ペトログラードで5万人にのぼる青年労働者の「青年インターナショナル・ロシア支部」の結成の事実をみることができる。そして、その後青年たちは国内戦の時期、祖国防衛のために限らない大きな力となり、赤軍の助手として、労働者、農民の援助者として勇敢な活動振りを展開してきたことを特筆しなければならない。

H.K. クルプスカヤによる、1917年6月『労働青年をいかに組織すべきか』のなかで、青年同盟の綱領草案が提示されている。その内容をみると、青年同盟はまず第一に、性別・宗教・民族のいかにかわらず、すべての青年が加盟できる組織であること。第二に、その目的は自由で、自覚的な市民、すべての被搾取者の解放のための成員を教育すること。第三に、活動

表—1 ロシアにおける青少年の社会的活動

1905	○規模の大きいストライキが各地で起る。とくに、エカテリナスラフカの少年・少女・青年のストライキが大規模に行なわれる。
1906	○バプリスク、プロスコフ地方で全ユダヤ人社会民主青年同盟と全ユダヤ人社会民主少年同盟組織による青年、児童の集会、デモが行なわれる。
1913	○モスクワ、ペテルブルク、エカテリナスラフカ ○ソルボモ、ブルヤンスク ○イワノフ・ボスネンセンスクその他の地域で青年・児童がストライキに参加。
1915	○ペトログラードで5万の青年労働者による「青年インターナショナル」ロシア支部結成。
1917	○青年・児童のストライキは大規模になり、おとなの参加が顕著になる。
1918	○トウーラで児童共産党創設される。 ○ウクライナで若いコルソモール組織される。 ○ノボコロドでコムソモールの指導下の児童組織できる。

H. A. коноплев:

出典: Очерки педагогики деткомдвижения 参照 (1930), М.

内容として児童労働を保護すること。具体的には、a) 未成年者の夜間労働の禁止、医療への援助、賃金引き上げ等の闘いに成年労働者の支持を得ること。b) 16歳までの児童に普通・義務・無償教育を与えること。c) 図書館、読書室、講習会および科学映画館等の建設を要求すること。d) 青年自身の学習のために独習サークル、移動図書館、クラブ、遠足、見学、実習などを組織すること。e) 自己教育のためのサークル、クラブ、読書室は、自治的に運営し、階級的自覚を豊かにのぼすものでなければならない¹¹⁾、などとなっている。この草案は、その後のコムソモール運動の骨子となっていく。換言すれば、この綱領草案の基本理念は、第一に、すべての労働者階級と被搾取者の真の平等を原則となっており、国際的連帯の強化、解放闘争への積極的参加を目的としている。第二に、教育権の原則、教育機会の拡大、教育施設設備の充実のための闘いをすすめること。第三に、児童労働の搾取・酷使の排除と労働教育の本質を主張している。

第2表は新政権の下で組織されたコムソモール員の組織状況である。それによると、組織創設時において、すでに22,000人の青年たちが同盟に組織されていることである。しかも、第1回の労働者農民青年大会直後、僅か2カ月の間に、96,000人のコムソモール員が組織されている。また、1920年には、じつに480,000人を集め、創設時の21.8倍の青年をコムソモールの組織に加えていることである。この1920年には、全ロシアコムソモール第3回大会が開かれた年である。この大会でレーニンは「青年同盟の任務」について画期的な演説をした。この演説は、単に青年の社会主義の学び方に関する手引きであるにとどまらず、社会主義教育の根本に触れる歴史的な内容をもつ演説であった。

この期、コムソモールの活動はレーニンの教えに従って、社会主義建設の使命を深く自覚し、おこなわれ、その結果組織の飛躍的発展が実現されていく。レーニンは、コムソモール運動の活動目標をつぎのように規定し、青年の社会主義建設事業にたいする任務の重要性について強調した。「諸君は自己を教育して共産主義者にならなければならない。青年同盟の任務は——この青年たちが学びながら、闘争しながら自分自身とかれらの指導者としてあおぐすべて

表—2 コムソモールの組織状況

年	コムソモ ール総数	男	%	女	%	備 考
1918. 10	22,000	—	—	—	—	
1919	96,000	—	—	—	—	
1920	480,000	—	—	—	—	
1922. 10	247,000	201,800	81.7	45,200	18.3	10月1日
1922. 10	289,839	—	—	—	—	コムソモール第5回大会 10月29日
1923	317,000	—	—	—	—	
1924. 1	406,660	342,814	84.3	63,846	15.7	
1924. 7	740,000	—	—	—	—	コムソモール第6回大会
1925. 1	1,020,465	856,420	88.9	164,036	16.1	
1926. 1	1,640,107	1,316,296	80.3	323,811	19.7	
1927. 1	1,964,319	1,545,454	78.7	418,865	21.3	
1927. 9	2,131,196	1,597,681	78.7	433,515	21.3	

浜内謙「ソビエト政治史」参照。

の人々を、そだてあけるように、この青年たちが、共産主義者を育てあげるように、同盟の実践活動を組織することである。現代の青年の教育、陶冶、学習の全事業は、青年の心に共産主義のモラルを育てあげることでなくてはならない。」¹²⁾ とするなかで、青年の教育目標を明示している。換言すれば、ここに青年が社会主義建設の大事業にすすんで従事することの意義が具体的に提示され、青年をして組織に結集させる展望がきりひらかれている。この演説は青年が a) 人類の遺産である知識をもって武装し、それを階級闘争の激化しているロシアの実生活のなかで鍛えあげることの意義、b) 階級闘争に参加し、社会主義建設者としての自覚的な規律をつくりだしていくマルクス・レーニン主義の世界観を会得することの意義、c) 階級闘争のなかで団結して行動できる集団主義者となることの意義を明快に指示したのである。

この時期になって、青年の自己教育の具体的な青写真が提示され、ソビエトの現実のなかで青年組織の広汎な結集とポリシェビキー的な政治・思想教育が、青年大衆のなかに広く、深く浸透していくのである。

2) 国際主義者・教員組合の創設と教育運動

新政権樹立後の新しい教員組織の原形は、1917年末、全ロシア教員組合 Всероссийский учительский союз=ВУС に反対して、国際主義者・教員組合 Союз учителей-интернационалистов の結成にはせ参じた教員の進歩的グループのなかにみることができる¹³⁾。もちろん、進歩的な教員グループが革命時において一夜にして組織されたものではなく、コムソモール運動にみられたように、すでに革命前においてそれは存在していた。そしてこのような教員グループの結集された力が、十月社会主義革命を勝利に導びく原動力となったことはいうにおよばない。とりわけ、人民大衆の立場にたつ大部分の小学校教員は、かれら自身、いやというほど窮乏を体験させられてきたし、また、専制政治の圧迫を体験してきた。一方、レーニンは小学校教員が、すでに革命前から多くのコサックの下級官吏、農村の黒百人組、官憲、探偵などを徹底的に苦しませ、反面、当局のいいがかりや迫害にたいして決して口を割らなかった、との

べている。これは彼らの階級意識の形成の広汎さをものがたるものである。さらにまた、1899年、教員に関するレーニンの見解によれば、教員に社会の民主化にたいする共鳴を求めることに少しの疑いをさしはさむ必要はないとのべている¹⁴⁾。

さて、1918年6月2日、ロシア共産党(ボ)は、教員の進歩的グループを党のまわりに結集し、国際主義者・教員組合の大会を開いた¹⁵⁾。この大会で、同年6月5日、レーニンは「…以前は、ソビエト権力との協同活動にうつるのが遅々としていた教員も、いまでは、この協同活動が必要なことを、ますます納得しつつある。このようにソビエト権力の敵から味方にかわる例は、他の社会層のあいだでも、非常にたくさんある。教員大衆は巨大な啓蒙的諸任務をひきうけなければならないし、なによりもまず社会主義的啓蒙の主力軍にならなければならない。……狭い教員活動のわくのなかにとどまってはならない。教員はたたかう勤労大衆全体と一体とならなければならない。新しい教育学の任務は、教員の活動と、社会を社会主義的に組織する任務を結びつけることである。」¹⁶⁾とのべた。この大会では、教員が「社会主義的啓蒙の主力軍」として、自らの活動が「社会を社会主義的に組織する任務」であることを確認していくのである。また、大会は学校改革の原則と学校制度、とりわけ、第一科学校を五年制とすること、第二科学校を四年制とする修業年限について決定した。

さらに、同年7月4日¹⁷⁾ロシア共産党(ボ)とソビエト政権のまわりにすべての進歩的教員を集めて、全ロシア国際主義者・教員組合第1回大会が開催された。この大会では全ロシア教員組合BYCの指導部の反革命的な役割を批判し、その罪状を明らかにしている¹⁸⁾。それとあわせて党とソビエト政権は、教員大衆に十月社会主義革命の意義と任務を説明する大会でもあった。その結果、『イズベスチャ』紙には、反革命的教員組織と縁をきることを声明する教員グループの手紙が、号をおってたくさん掲載されるようになった。たとえば、大きな集団であるプロニツクの郡組織が、教員同盟からはなれた。¹⁹⁾のである。国際主義者・教員組合に結集した教員は、この二つの大会を経過した後、早速各地方の学校、教育諸機関で活動し、教員組合の活動を急速に高めていった。

一方では多くの中学校教員(中学校、実科学校、商業学校)は、ツァーリ・ロシアの中間層官吏であった。かれらは小学校教員よりも高い報酬を受け、どちらかという役人層などの特権階級により近い立場をとっていた。問題は、かれらが革命的な労働者、農民、赤軍の側に立つか、それとも資本家、地主、ツァーリ官吏、ツァーリ将校の側に立つかの選択をせまられる時期であった。教員の階級分化は、まさに革命の最初の過程で迅速に進行していった。しかし、多数の教員はソビエト政権の側に移ったが、これに反対する一部の特権的学校の教員は、まだ残っていた。とくに、全ロシア教員組合BYCの指導部とつながりをもっていたカデット、社会革命党員は(エス・エル)、ソビエト政権に反対する教員を組織することに奔走し、全ロシアの規模で教員のストライキを組織した。しかし、それは散発に終り、1918年12月、人民委員会議の決定によって全ロシア教員組合BYCは解散させられた²⁰⁾。

国際主義者・教員組合に加盟した教員は、1918年6月の第1回大会の時点で1万2000人、その半年後の1919年1月の第2回大会では、前回の大会の約5.8倍にあたる7万人にのぼっている。しかし、1919年7月29日には、この組合を発展的に解消し、教育・社会主義文化労働者組合を結成した。この組合の構成員は、まず、教員、それに科学研究者、図書館員、農村図書室管理者、その他の文化・教育労働者たちであった。1920年秋、この組合員数は25万人にのぼり大きな勢力となった。ただ、組合構成員にたいする教員の割合は明らかではないが、こ

の時期における学校網と生徒数の急速な増加の実情からみて教員の占める比率が圧倒的に多いことが推定できる。

教員数であるが、1911年帝政ロシアの学校教員数は、13万1000人²¹⁾で、男女の割合は、男子5万5000人で全体の42%、女子が7万6000人で58%である。革命後の1922～23年には、普通初等学校、7年制学校、中学校の教員が22万2974人、1923～24年には、24万4004人、1924～25年には、25万1634人となっている²²⁾。ここで1917年から21年までの教員数が明らかでないが、1920～21年の普通教育学校数(小・中等学校)および生徒数と1922～23年のそれと比較するならば、その数を容易に推定できる。すなわち、前者では、普通教育学校が11万8398校に対して、後者は8万8588校である。つぎに児童・生徒数でみるならば、前者が978万699人にたいして後者は732万2062人である²³⁾。従って、1918年から21年にかけて教員総数は20数万人にのぼるものと推定される。

教員を中心とするその他の文化・教育労働者の結集は「社会主義的啓蒙の主力軍」としてその基礎をかためていくのである²⁴⁾。また、ロシア共産党(ボ)は、自らの「新しい組織」の指導性を明確にし、教育の主力軍の教育的・組織的活動、政治・思想教育の鍛練の重要性について強調した。また、レーニンは、国際主義者・教育組合の大会で演説し、ブルジョア的学校の階級の本質を暴露し、とくに「学校が政治の外にある」という欺瞞のスローガンを批判しながら、教育の社会主義的組織・制度の本質を明らかにし、その発展の筋道を教員大衆にさし示した。そしてレーニンは、労働者・農民の要求にこたえながら、「新しい人間」形成の教育綱領を提示した。すでにのべた、1920年10月の全ロシアコムソモール第3回大会のレーニンの演説は、青年の教育・訓育の社会主義的原則をさし示したものであり、単に青年だけのものではなく、とりわけ、社会主義教育の実際的な指導者としての教員大衆にとっても等しく重要な意義をもつものであった。

ロシア共産党(ボ)は、教員大衆に国民教育の分野での民主的な目的と課題を説明している。すなわち、1919年3月、ロシア共産党(ボ)第8回大会で採択した党綱領とその教育条項は、教員にたいする党の方針を説明するのに大きな意義をもつものであった。個々の教員は、この綱領が抑圧されてきた階級の要求にこたえるものであることを納得したのである。さらに、1918年10月16日、教育人民委員部の決定にもとづき公布された「ロシア・ソビエト社会主義共和国連邦における統一労働学校令」と「統一労働学校の基本原則」が、より教員大衆に強い確信をもたせることになった²⁵⁾。これらの内容は学校教育の無償、統一の学校制度、男女共学、教会から学校の分離、母語で教育を受ける権利などがもられている。換言すれば、これらの法令は、人格の全面発達をめざす課題にこたえるものであり、若い世代の知的、身体的、倫理的教育と総合技術教育の実現をめざす国家的保障の宣言でもあったからである。

3. 新経済政策初期の教育活動とその特徴

1) コムソモールの他組織への浸透とその教育活動

ロシアコムソモール第3回大会以後、コムソモールは、全ロシア的規模で児童の「新しい組織」創設に本格的に着手する時期である。1922年5月19日、全ロシアコムソモール第2回代表者会議においてピオネール組織の創設が決定されるのである。コムソモールは自己組織の統一・団結を確立しながら、それを基盤に児童の組織化という新しい課題にとりくんでいくの

である。もちろん児童の教育へ浸透していくだけでなく、広く成人の社会主義教育へと活動範囲を拡大していくのである。また、1921年、ロシア共産党(ボ)第10回大会は、新経済政策 НЭП を採択する。

新経済政策期の社会主義教育の課題は、第一に、教育のブルジョア的要素から十分に脱却しきれていない学校をプロレタリアートの学校にかえること、第二に、ツァーリとケレンスキーのおきみやげである大衆の文盲撲滅にあった。大衆が社会主義建設にむけて自主的、創造的、かつ集団的に参加する能力を養い、階級闘争の知識で武装することである。国内戦の時期においては、プロレタリア権力の全能力を戦争に集中しなければならなかったため、成人の再教育をかりうじて遂行していたにすぎなかった。つまり、国内戦を終わらせることによってソビエト政権は、国内の社会主義建設事業にたちむかうことが可能になり、その中心的課題の一つである労働者、農民の再教育と若い世代の教育にたいして特別の配慮が可能となり、また、その客観的条件ができてきた。

コムソモールの任務は、「新しい組織」である赤軍、労働組合、協同組合と並んで社会主義建設の担い手でなければならない。具体的な活動では、コムソモール員が労働組合、協同組合、または赤軍の一員として、労働者、農民大衆の模範となり、かつ社会主義建設のアクチーフとして活動することが期待されている。とくに、コムソモールは自己の活動の主要な課題として、児童の大衆的、自主的組織とその指導・援助にある。コムソモールと教員組合、とりわけ教員との接触は新経済政策期に入りますますます深められていくのである。その契機となるものとしては、まず、ピオネール組織の創設をあげなければならない。

ここでは、1920年から1922年までのコムソモール組織の実態を統計的にみながら、コムソモールの活動をピオネール運動の側面から考究する。第2表によれば、1920年から1922年4月にかけて、コムソモール員の大幅な減少がみられる。約50%の減少である²⁶⁾。この減少傾向を説明するには、ロシア共産党員数とのかかわりで見るとその原因を解明する手がかりが得られる。第3表によると、1921年から1922年にかけてロシア共産党員数(ボ)が、同じように減少していることがわかる²⁷⁾。

この傾向は、新経済政策への移行にともなう、人民大衆の小ブルジョア的イデオロギーの防止と社会主義建設のためのマルクス・レーニン主義の大衆化のためのアクチーフの役割をはたす党体制の強化を図る施策とみることができる。従って、党はコムソモールを党の影響下におき、それ自身の予備軍として規律を一層強化し、コムソモール運動を階級の糸で貫こうとするのである。新経済政策期の階級闘争は、一段と激化してくるので、コムソモールは党との間を一層緊密にすることによって、文化革命の分野で重要な役割を果たすようになっていくのである。

1922年、階層別にみたコムソモール員の割合は、労働者が28.8%、農民46.7%、そして職

表-3 ロシア共産党(ボ)組織状況

年 代	党 員 数	備 考
1905	8,400	
1907	46,000	
1917. 1	23,600	
1917. 4	40,000	
1918	115,000	
1919	313,000	大規模なパーージが必要であったが国内戦に入る。
1920. 1	431,000	
1921. 1	585,000	
1922	401,800	
1923. 1	372,900	

浜内謙「ソビエト政治史」参照。

員が25.0%という構成になっている²⁸⁾。これを見ると、農村青年のコムソモール員が約半数を占め、職員のコムソモール員が全体の割合からみて高い比率を示している。従って、当然にも青年労働者の組織化が相対的に低いことになる。第4表によれば、1924年頃になるとコムソモール員の構成は、農村青年にかわって青年労働者が高い比率を示し、両者の比率が同じぐらいになっていることである。特徴的なことは、1924年は別として、全体的に職員コムソモール員の比率が、1924年以降著しく減少することである。これを見るとコムソモール内部における労農同盟の実現は、1924年を待たなければならない。

つぎにコムソモールの活動内容についてである。ここではピオネール組織の指導・援助という観点から考究する。すでにのべたようにピオネール組織は、児童の大衆の組織である。その組織の実体は、第5表に示す通りである。この組織は、コムソモールの指導の下で、児童の特性を考慮しつつ、かれらの人格の全面発達を促す教育組織の一形態として性格づけられている。小論では、1922年5月、ソビエト政権が意図する「新しい組織」としてのピオネール組織の規約と活動目標・内容の検討をすすめるなかで、コムソモールの指導理念とそれ自身の活動内容を考究していく。

コムソモールは、ピオネール組織の指導目標・内容をつぎのように定めている。a) 革命的闘争にちなんだ児童の遊戯やエピソードを教えること。b) 労働者階級をブルジョア階級の圧迫から解放することの意義とその方法を教えること。c) プロレタリアートの一貫した政治・思想教育を施すことを基本目標とすること、などである。つぎに、その指導について「ピオネールの宣誓」および「ピオネール規約」を引用しながら、指導の実際について検討していく²⁹⁾。

ピオネールの宣誓

- (1) 労働者階級の隊列に加わります。
- (2) 私たちの同志を助けます。

ピオネールの規約

- (1) ピオネールは、いつも、いたるところで有用労働をもって知識習得につとめます。
- (2) ピオネールは、たばこをのみません。
- (3) ピオネールは、いつも清潔にし、かつ歯をきれいにみがきます。
- (4) ピオネールは、身なりをきちんと整えます。
- (5) ピオネールは、姿勢よく腰かけ、悪い姿勢ですわりません。

表—4 コムソモールの階層別組織状況率(%)

年 次	労働者	農 民	職 員	その他
1922	28.8	46.7	25.0	—
1923	34.0	42.0	—	(党員10)
1924. 1	40.6	40.5	18.9	—
1924. 7	44.2	39.3	9.5	7
1925	42.8	45.1	1.1	—
1926	43.7	46.0	1.4	8.9
1927. 1	42.6	47.5	1.7	8.2
1927. 7	42.4	47.5	1.5	8.6

溪内謙「ソビエト政治史」参照。1962。
但し、1923年の統計は、「スターリン全集」第6巻 p. 208 参照。

表—5 ピオネールの組織状況

年	ピオネール員数	倍 率
1922. 5	4,000	1
1923. 6	75,000	19
1924	170,000	42
1925	1,560,000	390
1949	13,000,000	3,850
1959	20,000,000	5,000

「ソビエト教育科学辞典」参照。1963年

(6) ピオネールは、ポケットに手を入れません³⁰⁾。

上でみてきた「ピオネールの規約」に示されているように、コムソモールは、それ自身プロレタリアートの倫理を会得し、かつ、それを指導指針としながら、校外における児童の日常生活を組織し、児童に自覚的な行動させる習慣を身につけさせようとするものである。ピオネール規約にも示すように、この期の指導の特徴は、労働の習慣と衛生・健康にかんする知識・習慣を与えることである。つぎにピオネールの活動形態についてこれらの問題点をさらに深めると、ピオネールの活動形態の主要なものとして(a) キャンプ、(b) 行軍・見学、(c) 通信、(d) 実地踏査、(e) スポーツ・体操・遊戯などがある³¹⁾。まず、児童をキャンプ、スポーツ、遊戯などを通して身体をきたえ、同時に立派なソビエト市民としての同志愛、愛国心を育成しようとする意図がある。当時の児童がおかれていた社会的状況は、なんといっても戦争の荒廃からまだたちあがれない時期でもあり、おびたしい数の児童が浮浪児、非行児という境遇にさらされるありさまであった。とくに、家庭からも、また学校からも放置されている児童がかなりの数にのぼった。つまり、児童が生活していくうえでの基本的な衛生・健康の習慣を会得させようとする要求が強く、健全な児童の環境づくりが焦眉の課題であった。

つぎに労働の習慣についてである。各種のクラブ活動やキャンプ生活、公園や広場の清掃、菜園での作業、さらに工場における作業を通して労働そのものを教育することが目標とされた。とくに、児童の集団的労働は農民や労働組合の援助³²⁾に具体的活動の場が設定されている。このように児童の活動を実生活と結びつけながら、児童の創意性、活動性、集団性をのばしていくような方法がとられている。コムソモールによるピオネール組織の指導の重点は、自発的サービス(self-service)の習慣形成とか、体育・スポーツの組織化の過程で、児童の感覚諸器官の発達を促し、さらに、労働、レクリエーション、および保健衛生にかんする習得を身につけさせることにあった。

1921年から22年にかけて、ソビエトでは、共産主義児童運動の指導をめぐる、コムソモールとクルプスカヤを代表とする教育人民委員部との間に若干の異なる見解がみられる。争点は、定式化されている目標に児童を如何にして引きつけるか、という点にあった。この問題でピオネール組織の育ての親・クルプスカヤは、その運動の展望を示しながら、コムソモールの指導にあらわれたいくつかの欠陥を指摘し、その克服につとめている。

まず、彼女は、ピオネール運動の实际的指導者であるコムソモール員たちの指導のあやまりとして、ピオネールとコムソモール組織の間に等号をおいたことでも批判している。「しばしば深夜まで続く際限のない会議、際限のない論争や決議が、児童運動におけるふつうの現象になった。子どもたちは退屈し、年長者、コムソモール員と争った。子どもの力はこのような重荷に耐えがたかったのである」³³⁾という事実、また、「太鼓の音、焚火のそばでの話しあいという時代はすぎってしまった」³⁴⁾という、コムソモールの主張がある。また、ボーイ・スカウトの方法、形態を深く学ぶことの意義にたいして「はて、なんだか反革命的な組織の遊びのすべてにまで、われわれはどんなかわりがあるのか？」³⁵⁾と、コムソモール員たちはいう。しかもそれはひとりだけではない。さらに、コムソモールの活動方法でいうならば、「かれらは自分たちの関心、ロシア・コムソモールの関心を、しばしば全体の関心と対立させる傾向があり、自分たちの活動をただ代表部や演説に限定している傾向」³⁶⁾があった。

このコムソモールの活動にたいして、1922年1月、クルプスカヤは『ロシア・コムソモールとボーイ・スカウト運動』のなかでつぎのようにのべている。彼女は、「ボーイ・スカウトの

あらゆる否定的な面を強調し、他方では、ボーイ・スカウトのもっている方法が目的になっ
ている」³⁷⁾ことを前提としながら、コムソモール活動を批判している。まず、第一に、コムソ
モールの指導者は自主活動力や積極性をひじょうに狭く理解していること。「ボーイ・スカウト
運動の実際的活動は、青年の訓育の事業にひろく適用されるべき方法を明らかにしている。コム
ソモール、ロシア・コムソモールは、これらの諸方法を実際に応用しなければならないが、そ
のさい、それらを熟慮した後、共産主義の目的を実現するために適用するのである」³⁸⁾と彼女
は、第一版への序文でのべている。この見解は、コムソモールの側から多くの非難があびせら
れていく。

第二に、コムソモールの組織の活動自体が、正しい道を進んでいるとはいえない、とい
う批判である。とりわけ、コムソモールの教育的影響力の脆弱さを指摘している。「都市や農
村の青年大衆は同盟の範囲外にいる。演説ができるもの、いろいろな施設のなかで代表者にな
るもの、代表になっているときに多くのことを学ぶもの、つまり、指導者たちだけが満足して
いるが、コムソモール大衆といえば、かれらはなにを得ているのであろうか。かれらはどこ
で自己の積極性を発揮しているのであろうか。かれらはなにによって教育されているのであろう
か。」³⁹⁾という指摘である。

典型的な現象として、この期のコムソモール大会は、そのメンバーの半数はインテリゲン
チヤで、あとの半数が労働者と農民であった。第4表からも、職員の占める比率で上のことが
容易に理解されるところである。つまり、青年労働者、農村青年がコムソモールのなかで、
まったく受動的なとるにたりない役割に終っており、社会主義建設の積極的な担い手となり得
ない情況があった。

第三は、コムソモール活動の諸方法が、青年のあふれんばかりのエネルギーの、はけ口を
提起していない点の批判である。この点の指摘は、すでに、1920年、全ロシアコムソモール第
3回大会でレーニンがのべたことである。「諸君が当面するのは建設の任務である。そして現
代の知識のすべてを身につけ、共産主義を、できあいの棒暗記した公式、助言、処方箋、訓
令、綱領から、諸君の直接の仕事を統合する生きたものに変え、共産主義を諸君の実践活動
の指針に変えることができてはじめて、諸君はこの任務を解決できるのである」⁴⁰⁾とのべてい
る。レーニンは、この大会で、「方法」ということばをくりかえし、くりかえしのべている。
つまり、これはコムソモール活動の方法について語ったもので、クルプスカヤが、この点を指
摘し、コムソモールの方法の一面化を批判したのである。「ロシアのコムソモールは、ボーイ・
スカウト運動にひじょうに敵対的な態度をとっている。ボーイ・スカウト運動によって追究さ
れる目的がプロレタリア的、共産主義的青年の目的と根本的に敵対的であるという点で、同盟
は正しい。」⁴¹⁾としながらも、「これは少年少女に接近する方法ということのようである。こ
れらの方法を少し近づいて検討してみよう。けだし、ボーイ・スカウト運動の目的が、われわ
れに敵対的であったとしても、方法はまったくもって受け入れ得るものだといえることができる
し、適切なかたちで利用できる」⁴²⁾として、ボーイ・スカウト運動の方法をあますことなく学
ぶようにすすめている点に注目しなければならない。(傍点筆者)

この論争は激烈をきわめ、コムソモールのメンバーの大部分は、つぎのように反論した。
「君たちはどうしてわれわれにボーイ・スカウト運動をおしつけるのか。この組織がきわめてブ
ルジョア的で、きわめて有害であることは明らかであり、われわれはかれらと共通するものを
なにもものもとうと欲してはいない」⁴³⁾という。全くその通りである。しかし、クルプスカヤ

は、これにたいして「少年少女にとって心理的に巨大な意義をもっているもっとも重要なことは、一定の理想の宣言に続いて、この理想を認めることから生ずる一定の具体的行動規則がでているということである。理想と実際の行動のこの結びつきのなかに、巨大な力があるのであり、その相対的に急速な成長のなぞの答がある」⁴⁴⁾として、クルプスカヤはボーイ・スカウト運動の方法、形態に深い洞察の眼をむけ、その運動の方法論的基礎を示したのである。

上でみてきたように、コムソモールの活動は、ブルジョアの遺産の創造的な摂取という点で弱点をもっていた。例えば、児童に労働を教えるといいながら、労働や機械の歴史的学習が判らなかつたり、また、生産工場での労働や生活との関連を十分に考慮しないという基本的な弱点をもっていた。児童にたいして誰が、どこで如何に接近するか、という方法を検討する課題がここに改めて提起された。そのことが、単にピオネール活動を発展させるだけでなく、ソビエト学校の建設の基礎となっていくのである。ここにコムソモールと教員組合の活動と緊密な接近・交流を開始する契機となっていくのである。これまでのコムソモールの指導は、(a) 児童にたいする教育的識見が未熟であり、教員の援助、とりわけ、教育学識見をもつ組織である教員組合の援助を必要としたこと。(b) ブルジョアの児童組織の創造的・批判的摂取の不十分さと共産主義児童運動の理論と実践の結合が十分に果されていないことなどがあげられる。

全体的にみて、青年・児童・生徒の訓育、すなわち政治・思想教育の面では、まだ、教育方法、形態に若干の欠陥をもちつつも党の指導のもとでそれを克服しながら成長していくコムソモールの役割を高く評価しなければならない。とりわけ、集団主義教育と国際主義教育、社会主義の祖国防衛の準備、反宗教教育、文盲撲滅運動、労働規律の向上⁴⁵⁾などに一定の成果を認めることができる。

2) 教員組合の組織確立とその発展過程

ロシア共産党(ボ)とソビエト政権は、前の時期に引き続いてソビエト学校の教員の政治・思想水準と文化水準の向上、生活建設、それに急速に増大する学校の教員養成などに多大な配慮を払った⁴⁶⁾。

1922年11月21日～26日まで開かれた全ロシア教育活動家第4回大会 Всероссийский съезд союза работников просвещения は、教員グループの共産主義教育についてセミナー、サークル、協議会、短期講習会などの大規模な方策を計画した。また、この大会にレーニンはつぎのようなメッセージをおくり、この大会の重要性を強調した。「同志諸君、諸君のあいさつに感謝し、青年を新生活建設のために育てあげるといふ諸君に課されている重大な任務をはたされるよう祈ります」⁴⁷⁾と、簡単なことばのなかに教員にたいする限りない期待がこめられている。また、1923年 Правда 紙は、優秀な教員コンクールを組織した。このコンクールには、多数の教員が自分の教育実践を紹介しているが、その教員コンクールで賞金を受けた教員のなかで、党員でない教員が非常に多かった。このことは「党員でない教員グループがますますその仕事において、共産主義教育の原則に近づいている」⁴⁸⁾ことを示すものである。

さて、この時期国際主義者・教員組合は、1917年以来、積極的な組織拡大を図り、1919年7月28日には、全ロシア社会主義文化教育労働者大会を成功させ、そこで全ロシア教育活動家および社会主義文化活動家労働組合を結成し、国際主義者・教員組合の発展の基礎をより強固なものとした。すでにのべたように、ここに集まった教育社会文化活動家は、7万人に及んでいる。1921年、この組織は教育労働者同盟と改称し、より広汎な教育労働者を結集していく。

レーニンは、1919年7月31日、教育活動家および社会主義文化活動家第1回全ロシア大

会で、この期の文化革命の特質をつぎのようにのべている。「われわれが身のまわりを見わたしてみるならば、古い教員組合の代表者たちがきのうも、きょうもわれわれと闘争するにあたって持ちだしている論拠、社会主義者と自称する、われわれの思想上の敵エス・エルとメンシェビキのところで、われわれはあいかわらず出合っている論拠」⁴⁹⁾との地道な闘いであって、これに勝利しなければならない点を強調している。また、レーニンはボリシェビキ的宣伝の必要不可欠なことについて「他国の帝国主義者や資本家どもは、ロシアが完全に武装していること、ロシア資本の運命ばかりでなく国際資本の運命もロシアできまるということを、論じている。だからこそ彼らは、その新聞雑誌——億万の大金で、そっくり買収されている世界中のブルジョア新聞雑誌をつかって、ボリシェビキにたいするうそを、前例のないほど大量にばらまいているのである」⁵⁰⁾とのべ、ボリシェビキ的宣伝活動の重要性を強調している。さらに、レーニンに関して特徴的なことはこの期間、とくに教育問題に力を入れ、あらゆる大会や協議会に参加していることである。同時にまた、この種の大会が多様な形で組織されていくのである。なんとすれば1919年7月以後の主な大会をあげてもよくわかる。1920年2月23日には、第3回県国民教育部校外教育課主任会議が開かれ、同月25日、レーニンは「正規の学校制度の外で教育を受けようとする住民の要望は異常に高まっており、またこの分野での働き手の欠乏も、異常に激しくなっている」⁵¹⁾とのべ、文盲撲滅運動をすみやかに、しかも全国くまなくすすめていくべきであることを強調した。さらに、1920年5月26日には、教育人民委員部実験・模範ステーション労働者第1回全ロシア大会 Всероссийский съезд работников опытно-показательных станций наркомпроса が開かれ、同年6月24日には、欠陥児童、浮浪児、非行児対象第1回全ロシア大会 Всероссийский съезд по борьбе с детской дефективностью, беспризорностью и преступностью が開かれている。同年10月2日には、全ロシアコムソモール第3回大会が開かれている。この大会は、コムソモールはもちろんであるが、教員にとっても大きな意義をもった大会であった。この大会におけるレーニンの演説「青年同盟の任務」は、社会主義教育の方法をさし示す歴史的なものであった。また、1921年5月5日、全ロシア県学校教員第1回大会が開かれ、社会主義教育の諸活動にかんする教育実践の報告とその課題の検討が試みられている。そして、1922年11月21日開かれた全ロシア教員組合第4回大会 Всероссийский съезд союза работников просвещения が、その代表的なものである。

つぎに教員の身分保障および労働条件の向上に関しては、まず、1921年1月20日、高令者および疾病教員のための特別年金法が制定され、教員の生活保障の制度が制定された。労働条件の改善については、1921年3月25日、人民委員会議は、レーニンの署名入りで「教育労働者の家」に関する法令を公布している。これは教育労働者の文化的、社会・政治的教育のためのセンターであり、教員の資質向上にとって大きな意義をもつものであった。

教育運動および教育行政の推進によって、ソビエトの教員大衆は、ソビエト体制の支柱として活動し、その勢力がますます拡大し、強固なものとなっていった。そして教員たちはロシア共産党に入党していくものが増えていく⁵²⁾。同時に、コムソモール・教員の数も増大し、教育労働者・教員の党員化、コムソモール員化が急速にすすめられていくのである。

4. 教育運動の有機的結合の達成

1923年、全ロシアコムソモール第3回委員会は、創設時におけるピオネール組織の指導内

容および方法・活動形態を実生活にそくして実践を深め、検討を加えていくのである。これまでの指導のあり方、なによりもコムソモールの活動自体が形式的な労働教育、形式的な体育・スポーツの組織化に終始したことにたいする反省からはじまっている。つまり、レーニンが『青年同盟の任務』でさし示している共産主義教育の「方法」を全面的に会得することであり、青年や児童のあふれるエネルギーにはけ口を提供する方法を考えることであり、かつ、定式化されている目標をたんなるかざりものとしないうちにボーイ・スカウト運動を綿密に試験する必要があった。ボーイ・スカウト運動は、第一に「児童の積極性を育くむ食物をあたえ、かれが独自に達成するところの、しだいに複雑化していく一連の目的を提起する。具体的で、じゅうぶん明白で、一定の努力によって達成しうるものであり、しだいに難かしく、遠くなっていく目的、こういう目的の提示はひじょうに大きな心理学意義をもっている」⁵³⁾ ことについて再認識していった。また、「ボーイ・スカウトの指導者は、共通の目的を提示してから、スカウトたちの発達に応じて達成しうる一連の個人的目的を課する」⁵⁴⁾ のであり、いつもスカウトにとって共通の目的とかれに提起された個人的目的との関係をいつも明らかにする。とくに、児童にとって重要なのは遊びの要素であるが、蓄えられた力を自由に使う遊びの要素は、自分の組織にたいする関心をひじょうに向上させる。クルプスカヤは、「もちろんブルジョアの遺産は拒否する必要があります。私たちの革命的活動はすべてブルジョアの遺産を拒否するものです。もちろん、このことは、私たちブルジョアジーの経験、その成果を利用しないということの意味しているのではありません」⁵⁵⁾ ときっぱりいいきっている。つまり、クルプスカヤは、児童運動および青年運動が、労働者・農民の実生活、すなわち、社会主義建設における社会的、政治的課題から遊離または有害な偏向を克服する必要を強調するのである。

また、ロシア共産党(ボ)第12回大会は「青年の活動について」決定した。全ロシア県教育者会議や全ロシア工業県社会教育第2回大会が開かれ、それらのなかで一様にいわれていることは、学校とピオネール組織の訓育と陶冶の不可欠な結合の必要が強調され、青年および児童の共産主義運動が、革命的学校の重要な構成要素であることである。ここに青年と児童の社会主義教育の在り方にたいする労働者・農民の要請が強く反映するのである。そして、ピオネール組織の指導者であるコムソモールと教育労働者・教員の教育における活動上の統一がはたされていくのである。小論では、とくに、レーニン記念全ソ連邦コムソモール第6回大会でのピオネールに関する決定を中心に、コムソモールと教員運動の統一と相互補完関係を考察することにする。まず、階級・労働の観点が「ピオネール規約」の改定にみられることに注目したい。(斧 点筆者)

＜ピオネールの規約＞

- (1) ピオネールはレーニン⁵⁶⁾の遺訓と労働者階級の任務を継承します。
- (2) ピオネールは世界の労働者の味方であり、富農とブルジョアジーの敵であります。
- (3) ピオネールは全世界の労働者、農民および勤労者の子どもの真の友であり同志であります。
- (4) ピオネールは共産主義の闘争において、共産党員とコムソモール員の若い兄妹であり助手であります。
- (5) ピオネールは社会主義を発展させるために窮乏と庄制にたいして献身的闘士となる準備をします。
- (6) ピオネールは知識を習得し、また、友人に学び方を援助します。知識と技術・技能は

労働にたいする闘争の力であります。

- (7) ピオネールは学習と労働のなかで規律をまもり、社会的財産にたいする注意を深めます。
- (8) ピオネールはソビエトの労働組合、協同組合の勤勉な助手であります。また赤軍の友であり、助手であり未来の戦士であります。
- (9) ピオネールは発展しつつある工場の技術・知識に学び、労働規則に服します。
- (10) ピオネールは貧農の友であり、収穫への闘争の援助者であり、コルホーズ、ソホーズ、コムーナの助手であります。
- (11) ピオネールは民族の反目に反対します。
- (12) ピオネールは大酒呑、乱暴者にたいする戦士であり麻醉的宗教にたいして闘います。
- (13) ピオネールはレーニンの旗の下に子どもを組織し、団結します。
- (14) ピオネールはあらゆるものをすみやかにしかも正確に遂行します。ピオネールはあらゆる子どもの模範となります。自分と他人の時間を大切にします。ピオネールはみんななかよく、組織的に働き、学び、休みます。
- (15) ピオネールは不潔と喫煙に反対します。また、自分と他人の健康をまもります。
- (16) ピオネールは勤勉であり、不屈であります。ピオネールは困難に屈せず、常に根気よく振舞います。

1924年の「ピオネール規約」をみてもわかるように、この期のコムソモールの指導の重点は、社会的有用労働を軸にした階級性の強調におかれていることが理解される。1924年規約は、「富農、ブルジョアジーを敵」とする階級性が具体化されていることである。また、組織原則として共産党——コムソモール——ピオネールという党派性の確立をうちたてたことである。政治・思想教育の面でいうならば、「貧困と圧制」にたいする不屈の闘争心、「知識の習得」をより具体的にだしている。社会的有用労働については、労働組合、協同組合、赤軍の「友であり、助手」であると、規定している。さらに、「あらゆる児童の模範」となること、「あらゆるものをすみやかに、しかも正確に遂行する」ことなどが、改訂前より前面にだされている。

つぎに、「ピオネールの規約」の下で、コムソモールは、どんな活動を組織したのであろうか。活動目標内容はつぎに示す通りである。

- (1) コムソモールにたいして積極的な援助をし、児童大衆の関心をひくような活動。
- (2) ソビエトの選挙の援助。
- (3) 工場の援助（製本、発行に関する業務）。
- (4) 赤軍の援助（赤軍の夕べに参加）。
- (5) 文盲撲滅運動への参加（識字力のあるピオネールが文盲、半文盲の児童および成人に教える）。
- (6) 農村図書室、博物館およびその他の文化施設にたいする援助。
- (7) 県内の整備作業（橋、道路の修理、消防器具置場の整備）。
- (8) 農作業への援助（農作物、森林の害虫駆除、除草、野菜の栽培、家畜の世話など）。
- (9) 衛生施設を改善し街や村の清掃作業、空地、ドブの清掃と害虫の駆除⁵⁷⁾。

活動内容をみてもわかるが、まず何よりも「コムソモール員にたいする積極的な援助」を期待した内容で、社会的有用労働、とりわけ、農村のそれを重視する指導方針がうかがわれる。

ことである。「ソビエトの選挙」、「文盲撲滅」、「赤軍の夕べ」、「工場への援助」、「文化施設への援助」、「衛生施設改善」、「整備作業」など、多彩な社会的有用労働に参加させていることが特徴的である。

とりわけ、HЭП期の1923年から1924年には、都市や農村における資本主義的残滓の最終的根絶を意味していたので、階級闘争は一段と激しくなる時期でもある。その当時の社会情勢をみると、まず、富農、ネップマン反革命分子、政府内部の妨害者、市民権喪失者、教会僧侶などは工業、農業、運輸、教育などのあらゆる分野にわたって、必死の妨害と抵抗が続いている。そのやりくちたるや、悪質きわまるもので、ピストル、ナイフ等の兇器による殺人、放火、飲酒、夕べの集い、冬期農村青年集会等で、賄賂、買収や集団化にたいする反政府宣伝を公然とおこなっている。とくに婦人層にたいして意識的に宣伝し、コルホーズで働く共産主義者にたいする事実無根の中傷、コルホーズにたいする辛辣な宣伝がおこなわれた。例えば、「悪い賦課労働のコルホーズは人民を貧乏な奴隷におとし入れるであろう。それはさぎである。労働者だけが暮すことのできるシステムである。」⁵⁸⁾などの反ソ、反コルホーズ宣伝がおこなわれた。また、バプチスト教師の麻酔的信仰の流布もおこなわれた。

こうした情勢のなかで、共産黨員、コムソモール員、貧農活動家、ソビエト労働者、ソビエト教師、村ソビエト員などが、反革命分子のテロ行為に倒れている。例えば、レニングラートのある地域では、1924年から25年の約1年間に前年のテロ行為件数33件から200件⁵⁹⁾に増大している。そのなかのいくつかの事件には、みな殺しのものがあり、コムソモール員、党細胞委員(書記)、区委員書記などは公然と殺害された。また、富農はアルコール、ウオツカ、サマゴン(自家製焼酒)を飲んで、農村にでかけていき、青年や富農支持者に酒を飲ませ、頹廢的な方向に引きこもうとしているのである。

このように文化戦線における両階級の闘争は、激烈なものである。すでに、レーニンは1919年3月12日、ペトログラート・ソビエトの会議でだされた質問にこたえて、階級闘争の課題をつぎのようにのべている。「古い社会を破壊したとき、ただちにすべての人民の意識のなかにある古いものを破壊することは、不可能なことである。古いものへ味方する若干の人数はいぜん残っているのである」⁶⁰⁾。階級闘争の激化にともなって、ブルジョアジーは全力をあげて社会主義建設事業を阻止しようとするのである。一方、プロレタリアートは、ポリシェビキ的意志と性格、困難を克服する能力、意識的な規律、労働にたいする社会主義態度が必要とされた。

1923年から1925年にかけて、共産党(ボ)は国民教育発展のための広汎な方針をだしている。このなかで、党は、ソビエト教師とコムソモール員の思想・政治的な水準と文化水準を引きあげることを不可欠として、党および政府はその指導性を大衆に浸透させるパイプとしてかれらを党の影響の下におかなければならないとした。従って、教員とコムソモール員はこの期に入って特別大きな役割をもたされ、また、それらの条件が整ってきたのである。

児童集団を社会的有用労働によって組織することは、児童の古の習慣・習性を撲滅するのに効果的な活動・方法である。コムソモールと教員の教育課題は、若い世代を社会主義教育の理論できたえることである。この期、ピオネール運動が大衆化するにつれてそれと学校との結合がさげばれ、両者の教育内容、教育活動の調整が進められていく。また、コムソモールと教員の指導にかんする平行主義の克服と指導の質的向上が党、教育人民委員部、コムソモールおよび教員組合の側から提起されるようになった。まず、全ロシア教員組合が、その第1回大会

を1925年1月12日～19日にわたって開かれた。そのなかで、学校教育と学校外教育活動の有機的結合の問題に触れ、コムソモールおよびピオネール運動を高く評価している。それによると、第一に、児童・生徒・青年は、社会主義の教育を単に学校で習得するだけにとどまらず、多様な教育形態、多様な教育機会を得させ、社会生活に直接参加することによってはじめてそれを習得されるものであること。コムソモールおよびピオネール組織による活動は、若い世代をマルクス・レーニン主義の精神で教育するうえで重要な部分をなすものであること。第二に、学校の訓育と教授の発展は、学校と社会的、政治的組織との緊密な結合によってはじめて達成されること。第三に、広汎な青年大衆の訓育と再教育の目的の正しい決定は、正しい指導によって保障されるものであること。そのためには、教員(学校)とコムソモール、ピオネール組織との有機的結合を図らなければならないことなどについて決定している。

全ロシア教員組合は、その大会で学校におけるピオネール組織の訓育的役割を重くみて、この組織にもっと教育学的な配慮を加えるべきことを強調した。このべながら教員組合は、学校と青少年の組織の指導の問題を積極的に解決しようとしている。その解決策は、第一に、ピオネール指導者(コムソモール)と教員の役割を明確にし、かつ有機的な指導体制をとること。責任所在の点からいうならば、ピオネール指導者は、党の委任によるもので、コムソモールのなかから選ばれるものであり、指導の重心をピオネール組織におき、訓育的な教育活動を主として担当すること。また、教員はソビエト政権の教育機関に従事し、指導の重心を学校におき、陶冶的な教育活動に重心をおくこと。第二に、コムソモールは、共産党(ボ)の指導をうけながらピオネール運動を指導する。これにたいして教員は、コムソモールに協力するが、ピオネール運動のイニシアテブをとらない。この意味は、教員がピオネール組織の指導にたいして完全に受動的でなければならないとか、その活動のなかでいささかの指導的役割をもち得ないということではない。むしろ、ピオネールは教員の積極的な援助を期待しており、共同作業のなかで教員は学校におけるピオネール活動の重要な参加者のひとりとして活動すること。また、ピオネール組織と教員との結合は、未組織の児童を魅力ある活動へと導き、同時に、その組織の魅力を湧きたたせるものであること。教員は専門的、体系的知識と技能をかれらとの共同実践のなかで十分に活用し、その組織の一員として、ピオネール指導員に教育的援助を与えることができること。第三に、ピオネール指導者も、教員も教育活動に従事する。従って、つぎに示す教育学的知識と技能を最小限会得しなければならない。a) 過渡期における教育学の課題、b) 児童の成長・発達の特質(10月の子・ピオネール、コムソモール)、c) 児童集団の教育法、児童の性格形式に与える環境の作用とその教育的配慮、d) 教育原理にもとづいた児童の遊びと労働などである。

明らかにこの時期まで、両者の教育的協力関係は、疎遠であり、またコムソモールにおける教育学的知識と技術・技能の水準が低かったといえよう。ここに至り、両者の連けいは緊密になっていった。すなわち、教員の側にとって児童運動の意義は、かれらの労働対象である児童を質的にかえていくピオネール運動の高まりによって、教員固有の任務である学校教育を容易にするものであった。青年の運動および児童の運動は、まず何よりも新しい児童を学校に与えた。それは児童に人間的価値意識を高め、学習への熱心な態度を育成しながら知識の渴望、関心を高め、規律づけていくからである。教員たちは、こういう児童たちとなら自分たちの教育活動がうまくいくと考えはじめるようになった。何故ならば、児童たちは、新しい学校建設に不可欠な知識を身につけ、プロレタリアートのイデオロギーで満されつつあったからである。

一方、コムソモールの側にとって、教員との協同の必要性は、教員の教育に関する専門的、体系的知識と技能を理論的にも、実践的にも学ぶ必要にせまられたことにある。ピオネール運動は教員の積極的な援助を必要としたのである。何故ならば、コムソモールの指導が体験と結びついている体系的知識がなければ、青年にとっても、児童にとっても全体的、一元論的世界観をつくることはできない。はっきりと、しかも遠くまで見とおし、論理的に考え、一定の見とおしのなかに諸事実を支配する能力を身につけることのためには、教員の援助が必要であったのである。

ピオネール組織の本質は、教員のよけいな世話から解放され、自分たちのイニシアティブで集団を組織し、自主性、創造性、集団性を志向する自治組織である。その意味で、これは児童の政治的、市民的教育の学校である。一方、教員は作業の重心を学校におき、コムソモールの指導を援助するのである。教員はピオネールとの共同作業を通して児童に教育作用を及ぼす。教員はピオネール運動における重要な参加者のひとりとして位置づけられる。つまり、コムソモールおよびピオネール組織と教員との結合は、未組織の児童を魅力ある学習、作業、スポーツ・遊戯への実現に導くことを軸に大きく発展するのである。

<註>

- 1) В. И. Ленинは赤軍、労働組合、協同組合、コムソモールおよびピオネール組織などを共産主義の学校・「新しい組織」とよんでいる。(『ソビエト権力の当面の任務』『レーニン全集』、第27巻、大月書店版、p. 226, 1964) 参照。
- 2) 共産青年同盟の略称。現在は、全ソ連邦レーニン記念共産青年同盟 (Бессоюзный ленинский коммунистический союз молодежи) と呼んでいる。基礎組織として、Комсомольская организация школы があり、その下に、Комсомольская организация класса がある。ロシア共産党 (ボ) 第13回大会は、ロシア共産青年同盟の活動に関する決議のなかで、「学校での活動は生徒たちの最大限の自主活動とぜひとも結合されなければならない」と指示している。コムソモールの役割は、学校事業の改革とのかかわりで大きい。
- 3) ソビエト権力の樹立をめざすボリシェビキ党の教育方針を支持する教員の組合をさす。この組合の前身は、1917年結成された国際主義・教員組合 Союз учителей-интернационалистов であり、これが1921年になって教育労働者組合に発展的解消し、さらに、1925年、全ロシア教員組合となる。
- 4) レーニン「ソビエト権力の当面の任務」(『レーニン全集』、第27巻、同上)、pp. 241-281 (カッコ内引用者)、1964。
- 5) レーニン「全ロシア中央執行委員会の会議」(『前掲書』)、p. 291。
- 6) 前掲書、p. 303。
- 7) ソビエト権力が樹立する前は、4ケ年にわたる第一次世界大戦に加えて、その後半には革命的動乱がおきた。十月社会主義革命の初期には資本家、官僚のストライキとサボタージュが起きた。また、1918年のはじめには、連合国側の外国帝国主義者と国内の反革命勢力が形成された。つまり、干渉戦と国内戦がロシアを包んだ。
- 8) ベ・エス・ポノマリョフ監修、ソ連政治経済研究会訳『ソ連共産党史』、第3分冊、p. 1、現代社、1959。
- 9) 前掲書 (『ロシア共産党 (ボ) 第10回大会、新経済政策への移行』)、p. 28。
- 10) レーニン「運輸労働者全ロシア大会での演説」(『レーニン全集』、第23巻、p. 229, 1964。
- 11) Н. К. Крупская: Педагогические сочинения, том первый, стр. 427-429, АПН. РСФСР, М., 1959 г.
- 12) レーニン「青年同盟の任務」(『レーニン全集』、第31巻、p. 279。

- 13) 竹田正直・沼田郁子「ソビエト教員運動史——そこから引き出される教訓」(『ソビエト教育科学』, No. 27号, pp. 79-83), 明治図書, 1966年12月, または, コンスタンチノーフ監修・勝田昌二訳『世界教育史』, 2., p. 145, 青銅社, 1954. などが詳しい。
- 14) М. А. Прокофьев: Народное образование в СССР, 1917-1969, Изд. стр. 160. “Просвещение”, М., 1967.
- 15) Заочный семинар руководителей школ. Приложение к журналу “Народное образование”, No. 1, 1958 г. стр. 12. М., 1958 г.
- 16) レーニン「国際主義的教員全ロシア大会での演説」(『レーニン全集』, 第27巻, p. 409.
- 17) Заочный семинар руководителей школ. Приложение к журналу “Народное образование”, No. 2, 1958 г. стр. 12, М., 1958 г.
- 18) コンスタンチノーフ, 勝田昌二他訳, 前掲書, p. 166.
- 19) 同前。
- 20) М. А. Прокофьев: Народное образование в СССР, 1917-1969, стр. М., 1967.
- 21) А. А. Коростелев, А. В. Луначарский и С. И. Сырцов: Учитель и революция, Изд. “Работник просвещения” М., 1925 г. стр. 161.
- 22) コンスタンチノーフ監修, 前掲書, p. 192.
- 23) 同前, p. 176.
- 24) М. А. Прокофьев: Народное образование в СССР, 1917-1969 гг. стр. 159-164.
- 25) Там же. стр. 161.
- 26) 浜内 謙『ソビエト政治史』, pp. 135-145. 勁草書房, 1962.
- 27) 同前。
- 28) 同前。
- 29) Н. А. Коноплев: Программы занятий в отрядах юп. Изд. “Молодая гвардия”, стр. 168-178, 1928 г.
- 30) Ф. Ф. Королев: Очерки по истории советской школы и педагогики, 1921-31, АПН. РСФСР, М., 1961 г. стр. 23.
- 31) Н. А. Коноплев (1928): стр. 168-178.
- 32) Там же.
- 33) Н. К. Крупская: Педагогические сочинения, том пятый, «Пути пионердвижения» АПН. РСФСР, М., 1959 г. стр. 305.
- 34) Там же. «РКСМ и юйскутизм» стр. 304.
- 35) Там же. стр. 45.
- 36) Там же. стр. 33.
- 37) Там же. стр. 25.
- 38) Там же. стр. 25-26.
- 39) Там же. стр. 28.
- 40) レーニン「青年同盟の任務」(『前掲書』), p. 287.
- 41) Н. К. Крупская: Педагогические сочинения, том пятый, стр. 34.
- 42) Там же. стр. 37.
- 43) Там же.
- 44) Там же. стр. 38.
- 45) コンスタンチノーフ『前掲書』, p. 186.
- 46) コンスタンチノーフ『前掲書』, p. 193.
- 47) レーニン『前掲書』, 第33巻, p. 407.
- 48) コンスタンチノーフ『前掲書』, p. 193.
- 49) レーニン「教育活動家および社会主義文化活動家第1回全ロシア大会での演説」(『レーニン全集』, 第29巻, p. 548).

- 50) 同前, pp. 551-552.
- 51) 同前。
- 52) コンスタンチノーフ『前掲書』, p. 193.
- 53) Н. К. Крупская: Там же, стр. 41.
- 54) Там же.
- 55) Там же. <За углубленное содержание пионерработы>, стр. 235.
- 56) Н. А. Коноплев: Очерки педагогики деткомдвижения, стр. 146. и “Пионерская правда” No. 113, 19/IX, 1924 г.
- 57) Там же. “Постановление VI. Всероссийского с’езда РКСМ, 1924 г.
- 58) Н. А. Коноплев: Там же, Материалы для докладчиков, стр. 47-48.
- 59) Там же.
- 60) レーニン「小冊子『合同』大会記録文書序文」(『レーニン全集』, 第5巻, p. 315.